

警察犬と考えよう  
犬のトラブル解決法

第1回  
“災害時、犬はどうなる？”

活動報告書

- ・日時：平成23年11月23日(祝) 13:30~15:30
- ・場所：静岡市清水文化センター
- ・タイトル:「災害時 犬はどうなる？」
- ・講師：平井潤子氏（公社）日本愛玩動物協会災害担当理事
- ・対象：一般市民
- ・主催：静岡市
- ・企画・運営：犬の会

・セミナー参加者63名  
・アンケート回収56枚

葵区10名 駿河区10名 清水区24名 焼津市2名  
以下1名 藤枝市・菊川市・富士市・沼津市 無回答13名

## 活動内容報告

平成23年11月23日、静岡市清水文化センターにおいて13時30分より公益社団法人「日本愛玩動物協会」災害担当理事、平井潤子氏による講習会を開催した。平井氏は、東日本大震災、三宅島の噴火、中越地震、すべて現地で救援活動をしながらペットたちの実情をつぶさに見てきた人物である。当日63名の市民が参加し、災害時に犬たちのおかれる状況、飼い主たちの直面する問題点を学んだ。

飼い主が事前に準備すべき物品やしつけの重要性、そして避難所で飼い主の取るべき行動など考えさせられる内容であった。また、講師が用意してくれた被災地の画像は東日本大震災の発生直後から講習会前日のものまであり、資料として大変貴重なものばかりであった。

講義の終わりには、参加者からの質問にもすべて、丁寧に答えていただいた。犬の会としては、事前に動物指導センターに取材した「被災したペット動物の救護について」など、今現在の静岡市の体制について説明した。会場では平井講師にお借りした犬用の非常時持ち出し袋の中身を展示し、参加者の大きな関心を集めた。

そして、避難所で犬を受け入れてもらうための重要なしつけである「ケージの中でおとなしくしている事」のデモンストレーションとして、ラブラドルレトリバー1頭、トイプードル1頭をそれぞれケージに入れた状態で講習会の最初から最後まで会場内に置いた。初めて連れてこられた場所で、大勢の人に囲まれていても騒がず、ケージの中に居ることができる犬を目の当たりにした参加者は講義の内容と相まって、しつけの重要性を肌で感じた」と好評を得た。この講習会でのモデル犬の存在意義は大変大きかったと感じた。

参加者に配布した資料は平井講師作成のレジメ2種「大規模災害の被災地に学ぶ心得と準備」と「ヒトと動物の防災を考える」、環境省作成のパンフレット「ペット動物の災害対策」、(公社)日本愛玩動物協会作成のパンフレット「ひとと動物の防災を考えよう」、質問用紙、第2回事業のチラシ、アンケート用紙である。

講師の持つ豊富な経験と資料、そして参加者の高い関心と熱気で15時30分の終了時間を15分ほど超過したが、無事第1回目の事業を終えた。

最後に、静岡市獣医師会のチラシ配布のご協力、静岡市動物指導センターの事前取材の際の情報および資料の提供、また、静岡市清水文化センターの会場内への快いモデル犬の受け入れに感謝したい。

## 成果

近い将来、東海地震の発生が予想される静岡という土地柄、地震に対する意識が元々強いところへ、平成23年3月11日、未曾有の大震災が起こり災害に対する関心が一段と高まった。テレビなどのメディアは津波に流されて奇跡的に助かった犬や、福島に取り残された動物たちを大きく取り上げた。その為、ペットを飼育している市民にとって災害時のペットたちの処遇というのが切実な問題であることを再認識することになった。

3・11後8ヶ月という、ある意味記憶の生々しい特殊な時期ではあるが、現地に入って動物の救援活動をして、災害時にペットたちのおかれる状況や、飼い主たちの取るべき行動、また援助の仕方を熟知している講師に講習会を依頼する意義は大きいと感じた。

当日は「災害時、犬はどうなる?」というタイトルにもかかわらず、アンケートの設問(2)からも分かるように犬を飼っていない受講者が全体の14.3%と予想外に多く、大型犬小型犬、又は犬という種に限らず動物を飼育している人の不安を窺い知ることになった。その他、被災地の動物たちを支援する方法を知りたいという人の参加もあった。

会場は市の中心地でもなく、車で来場も駐車場の関係で難しい場所であったが、63名の市民を集めることが出来たのは、市の広報誌に掲載されたことと並んで、チラシを大量に用意し、会場周辺の公共施設に多く配布したり、最寄の駅を利用する人の目に留まるように静鉄の各駅に貼ってもらったり、静岡市獣医師会の協力を得て動物病院に置いてもらったりと配布先や方法を工夫したことが功を奏したと考えられる。

数々の災害現場で動物の救援をしてきた講師の視点は、食料や物資が沢山あればそれでよいという私たちの固定観念を覆すものであった。事前に物を用意するだけでなく、ある物を工夫して活用する応用力が必要だという事。また、避難所に犬を連れて行けるのかという受講者の不安には、普段からのしつけ、犬飼い仲間同士の共助、犬連れとそうでない人との住み分けの提案という解決方法を示した。避難所を犬連れの人と住み分けてもらえるよう提案する際には、同じ避難所に行く事になる近所の人たちとの良い人間関係、そして常に正しい犬の飼い方をすることが大きなカギになると説いた。

これはアンケートの設問(7)に顕著に現れている通り、食料や水のような「物」を準備することも大切だが、しつけや犬を取り巻く周囲とのコミュニケーションなど、犬にしてやれる「こと」が重要であると受講者は学んだ。具体的には、アンケートの設問(6)で準備している「こと」のある人が3人だったのに対し、アンケートの設問(7)で実際に取り入れてみたい準備で犬にしてやれる「こと」を回答した人は34人と10倍以上に増えたことだ。この受講者の意識の変化は、災害時に犬のおかれる状況を具体的に知り、それに対処する方法を学ぶことが出来た大変大きな成果といえる。

そして、被災した人にとっては人命が第一でなければならず、特に家族に亡くなった人や行方不明の人がいる方には、犬の支援を前面に出しては受け入れてもらえないという大変デリケートな部分にも気付かされた。

特筆したいのは、アンケートの設問(5)で75.5%の人がモデル犬が「とてもよい」と答えている点である。百聞は一見にしかずとは正にこのことで、「犬の会」が最も大切にしていることでもある。モデル犬は講習会の最初から最後まで会場内に置かれたクレート(動物用輸送かご)の中に入っていただけである。しかしそれは、初めて連れてこられた場所で、知らない人に囲まれ、飼い主と離れて長時間おとなしくしているという避難所を再現したものであり、アンケートの設問(7)の実際に取り入れてみたい準備のトップになった。多くの飼い主は、クレートに犬を入れるのは可哀想で犬にとって辛いことだと思っている。しかし会場でクレートに入っている犬を見ると、災害時に犬のおかれる状況を意識し、クレートの中でリラックスしていられることの必要性を感じるようになる。目の前にクレートに入っている犬がいたら、自分の犬もやれば出来るという理解につながるのだ。その為、モデル犬の存在は重要なのである。

以上のように、災害時に於いては日常生活でのしつけが大変役立つと受講者に伝わり「市民が飼い犬へのしつけの重要性に気付く」という事業目的に適った成果を得ることが出来た。また受講した市民の犬が被災したときに、避難所に受け入れられる可能性が高まったのは言うまでもない。チラシの配布に協力してくれた静岡市獣医師会、事前の情報提供、資料提供をしてくれた静岡市動物指導センター、並びに市民の利益のために会場に犬を入れることを許可してくれた静岡市清水文化センターには改めて感謝したい。

最後にアンケートの設問(4)、あるいは(8)で分かるように市民の求めるものは災害時に飼育動物を守るための情報である。早急に、新しい想定で、静岡市のペットに関する災害時の指針を形にして、広く市民に示してほしい。決して、自助共助の現場力に頼るだけでなく、自助共助公助のバランスを保てるよう市に要望したい。

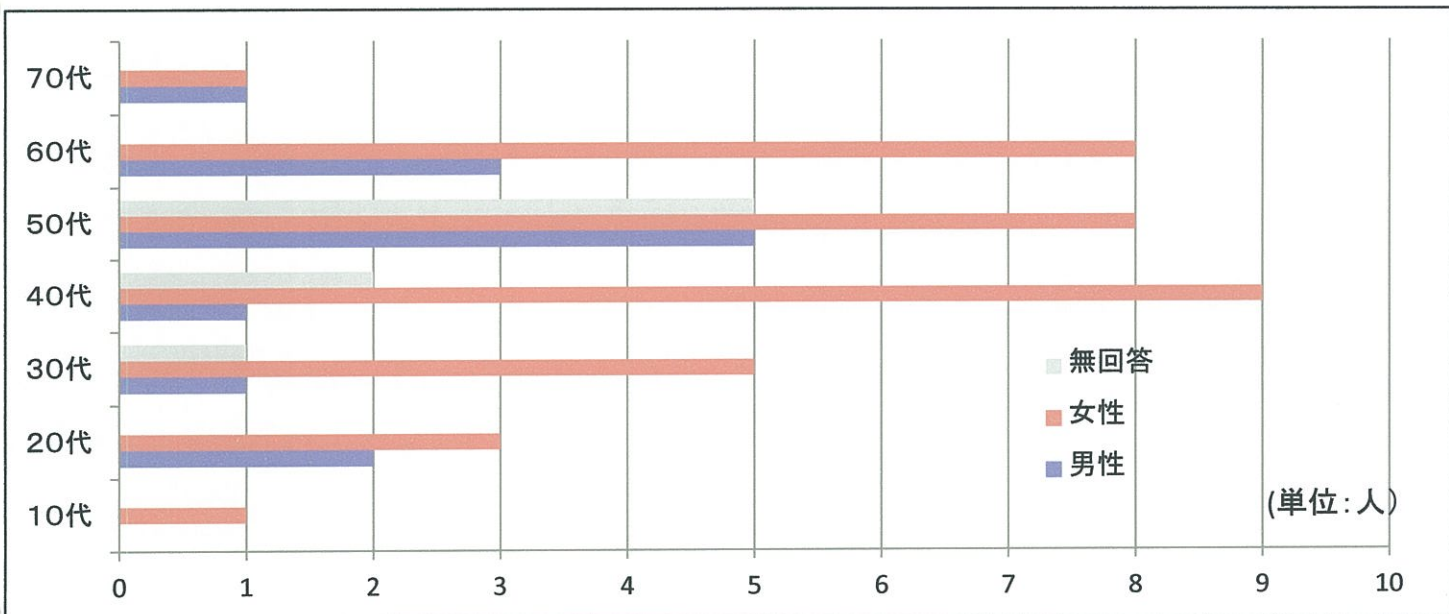


# アンケート集計結果

## 1) あなたの性別、年齢を教えてください

(単位:人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	0	2	1	1	5	3	1	13
女性	1	3	5	9	8	8	1	35
無回答	0	0	1	2	5	0	0	8
	1	5	7	12	18	11	2	56



### ◆結果

- ①50才代の受講が最も多く約30%、続いて40才代、60才代が20%だった。中高年の受講者が多かった。
- ②男女比は女性が男性の約3倍で、女性の方が多い。

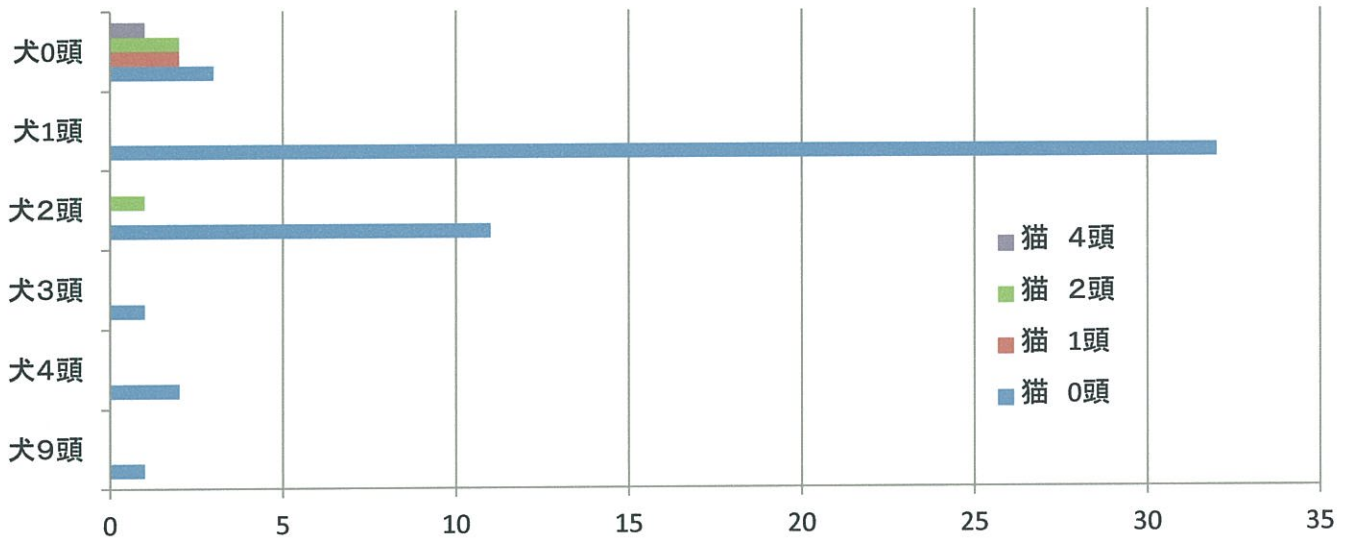
## 2) ペットを飼っている方にお尋ねします。 何を(種類も)何頭飼っていますか？

(単位:人)

猫 \ 犬	犬0頭	犬1頭	犬2頭	犬3頭	犬4頭	犬9頭	計
猫 0頭	3	32	11	1	2	1	50
猫 1頭	2	0	0	0	0	0	2
猫 2頭	2	0	1	0	0	0	2
猫 4頭	1	0	0	0	0	0	2
計	8	32	12	1	2	1	56

### ・その他の内訳

- ・犬1頭とウサギ1羽(1)
- ・犬1頭とウサギ1とインコ2金魚(2)
- ・犬1頭とカメ1と魚多数(1)

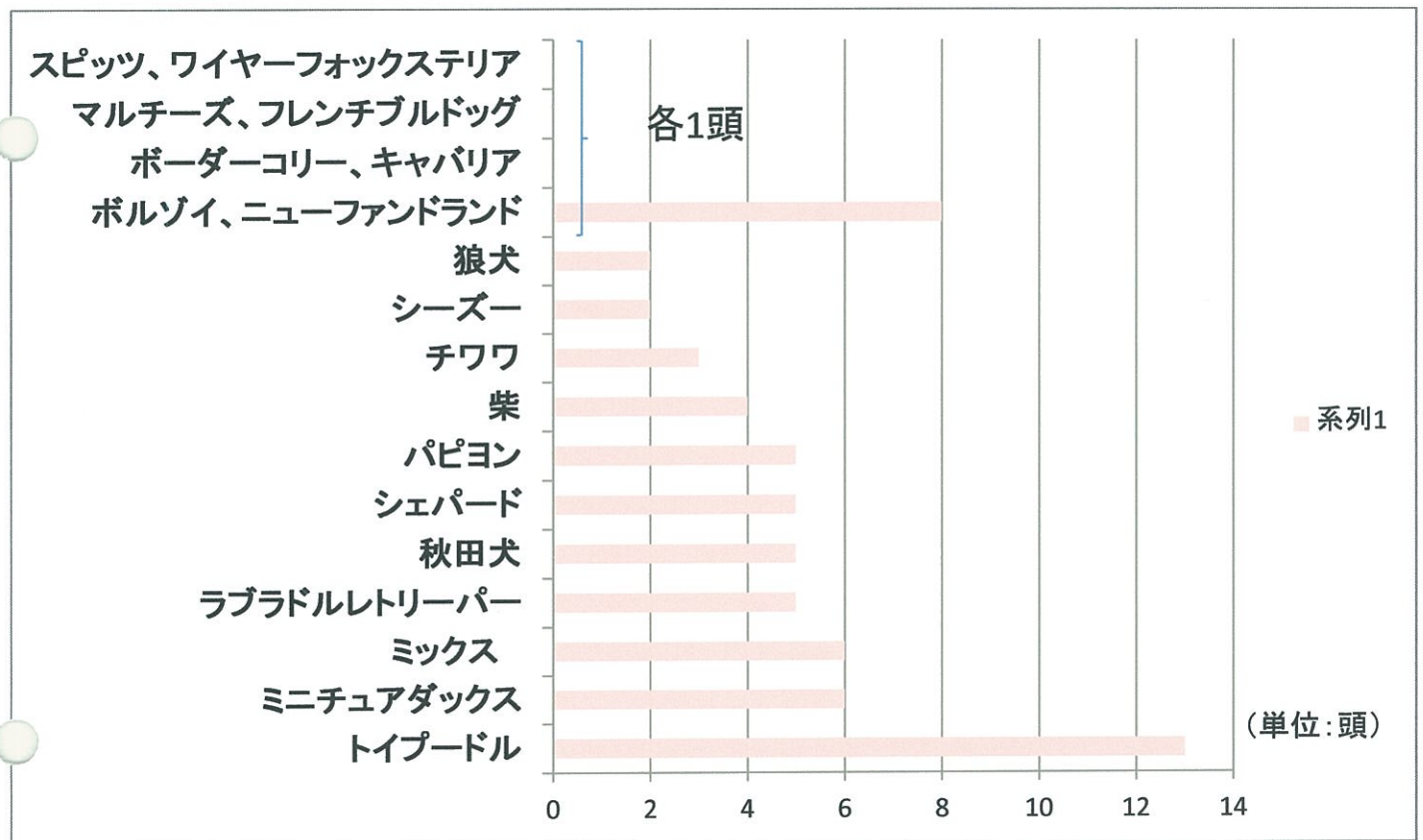


### ◆結果

- ①受講者は、犬だけ1頭飼育者が最も多く57%、次いで犬だけ2頭飼育者が20%だった。
- ②受講者のうち、犬以外の動物飼育者が8.9%、これに何も飼っていない受講者5.4%を加えると、犬を飼っていない受講者が全体の14.3%だった。

## ・種類は何ですか？

犬	トイプードル(13)	ミニチュアダックス(6)	ミックス(6)	秋田犬(5)	ラブラドルレ
	トリーパー(5)	シェパード(5)	パピヨン(5)	柴(4)	シーズー(2)
	狼犬(2)				
以下1頭	ボルゾイ	ニューファンドランド	ボーダーコリー	スピッツ	マルチーズ
	フレンチブルドッグ	キャバリア	ワイヤーフォックステリア		(計64頭)
猫	ミックス(10)				(単位:頭)



### ◆結果

- ①トイプードルが20.6%でもっとも多く、次いでミニチュアダックス、ミックスの順だった。
- ②秋田犬をはじめとする大型犬が多く、全体の29.6%だった。

### 3)このセミナーをどこで知りましたか？(複数回答可)

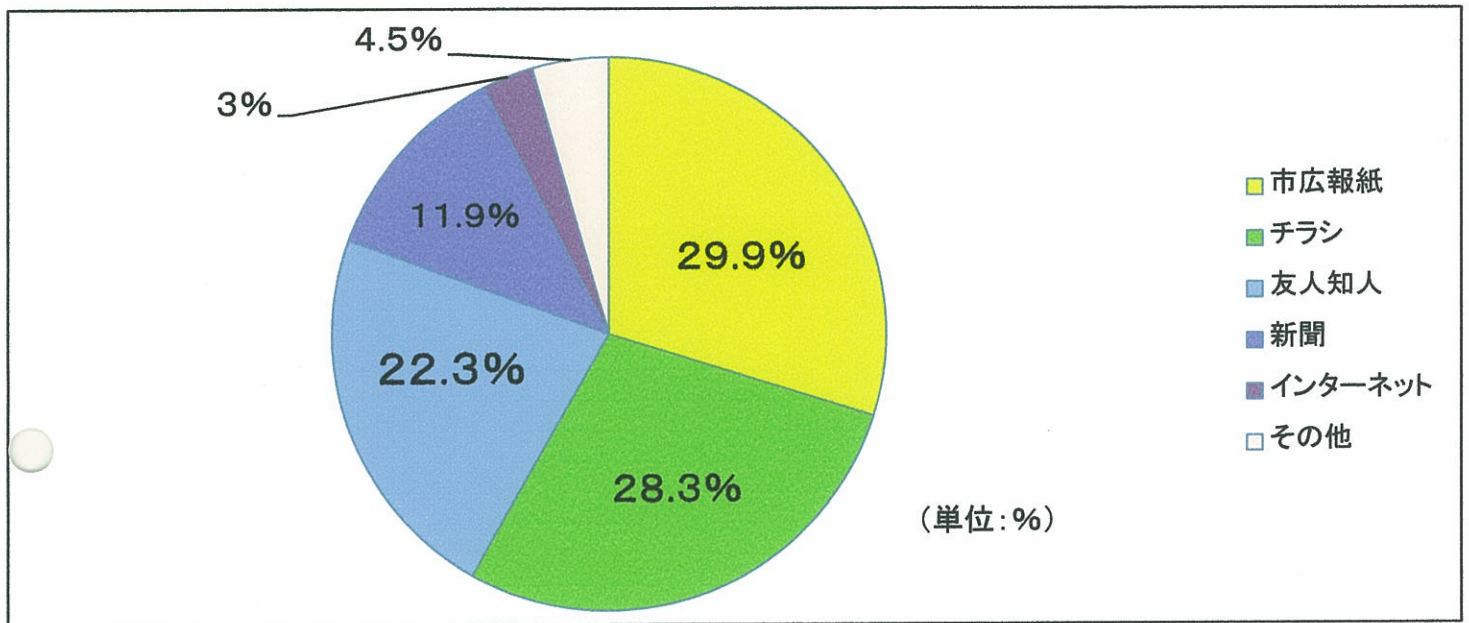
市広報紙	友人知人	新聞	獣医	駅	生涯学習施設	インターネット
20	13	8	6	3	2	2
図書館	体育館	ペットショップ	ラジオ	児童館	その他	
1	1	0	0	0	11	(単位:人)

-その他内訳 (11)	動物愛護フェスティバル(5)			
	妻(1)	親族(1)	当館勤務(1)	不明(3)



	市広報紙	チラシ	友人知人	新聞	インターネット	その他	ラジオ	計
延べ回答	20	19	15	8	2	3	0	67
シェア	29.9%	28.4%	22.4%	11.9%	3.0%	4.5%	0%	100.0%



#### ◆結果

- ①最も多いのが市広報紙29.9%、次いでチラシが28.3%でほぼ市広報紙と同じだった。  
 [ここでいう「チラシ」とは獣医、生涯学習施設、駅、図書館、体育館、動物愛護フェスティバル会場で配付したチラシを合計した数字である。]
- ②チラシを置いた場所の中では「獣医」が最も効果的で8.9%、次は静岡鉄道沿線の「駅」だった。
- ③「友人・知人」の効果は22.4%だった。(「妻」、「親族」という回答も含む。)



#### 4) 受講の理由を教えてください。

##### (意見要約)

- ・いざという時の対応が知りたい(同伴、どこへどうやって) 17人
- ・災害時のペットが心配(守りたい、救いたい、助けたい) 12人
- ・準備が知りたい 6人
- ・大型犬を飼っているので 5人
- ・東日本の実状を知りたい 4人

- ・友人に誘われて
  - ・猫を飼っているので
  - ・情報が欲しい
  - ・支援の仕方が知りたい
  - ・関心が高かった
- 各2人

- ・犬を4頭飼っているので
  - ・災害時の犬を考えたことがなかったので
  - ・プロのトレーナーなので、得た知識をお客さんや知人に教えてあげたいので
  - ・市の情報が知りたかった
  - ・人と動物の共存について考えさせられたから
  - ・何も飼っていないけれど。
- 各1人

(無回答3人)

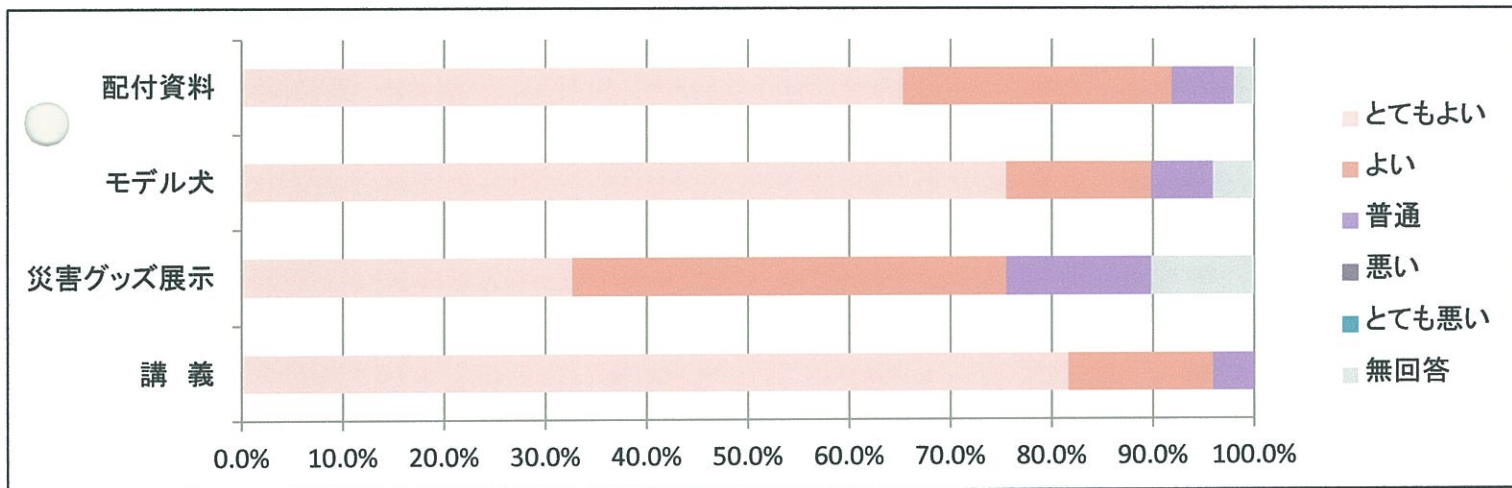
## 5)きょうのセミナーはいかがでしたか？

	とてもよい	よい	普通	悪い	とても悪い	無回答	計
講義	40	7	2	0	0	0	49
災害グッズ展示	16	21	7	0	0	5	49
モデル犬	37	7	3	0	0	2	49
配付資料	32	13	3	0	0	1	49
計	125	48	15	0	0	8	196

\*全問無回答7人

単位:人

	とてもよい	よい	普通	悪い	とても悪い	無回答
講義	81.6%	14.3%	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%
災害グッズ展示	32.7%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	10.2%
モデル犬	75.5%	14.3%	6.1%	0.0%	0.0%	4.1%
配付資料	65.3%	26.5%	6.1%	0.0%	0.0%	2.0%

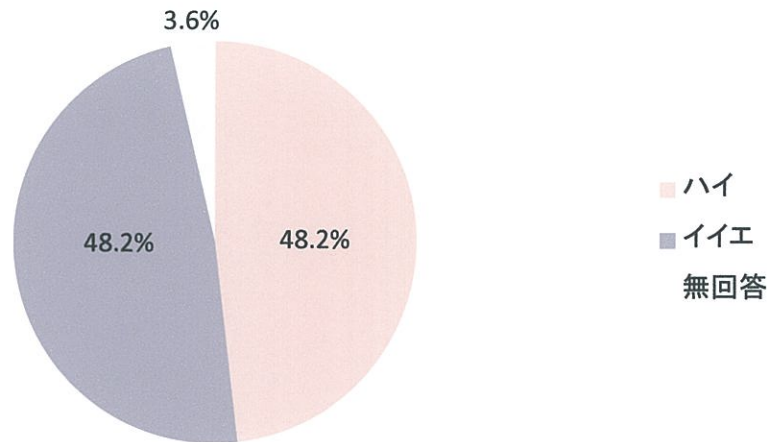


### ◆結果

- ①「講義」については81.6%の受講者が「とてもよい」と答えている。
- ②「モデル犬」と「配付資料」についても、「とてもよい」と「よい」で、9割をこえている。
- ③全体を通して「悪い」と「とても悪い」の評価はゼロだった。

## 6) 現在、ペットのための災害準備をしていますか？

ハイ	27	48.2%
イエエ	27	48.2%
無回答	2	3.6%
計	56	100%

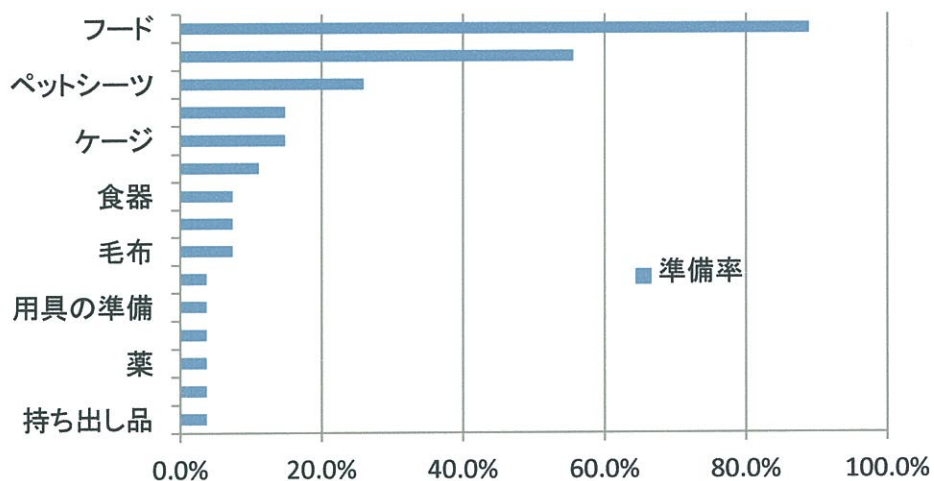


### ・どんな準備をしていますか？

もの	フード(24) ビニール袋(3) キャリーバッグ(1) 持ち出し品(1)	水(15) 食器(2) 布団(1) 不足(1)	ペットシート(7) タオル(2) 用具の準備(1)	リード(4) ケージ(4) 毛布(2) 新聞(1) 薬(1)
こと	犬の首輪に住所などの情報を書いた(2) クレートトレーニング(1) 無回答(25)			(単位:人)

準備品	準備率
フード	88.9%
水	55.6%
ペットシート	25.9%
リード	14.8%
ケージ	14.8%
ビニール袋	11.1%
食器	7.4%
タオル	7.4%
毛布	7.4%
布団	3.7%
用具の準備	3.7%
新聞	3.7%
薬	3.7%
キャリーバッグ	3.7%
持ち出し品	3.7%

### 準備率

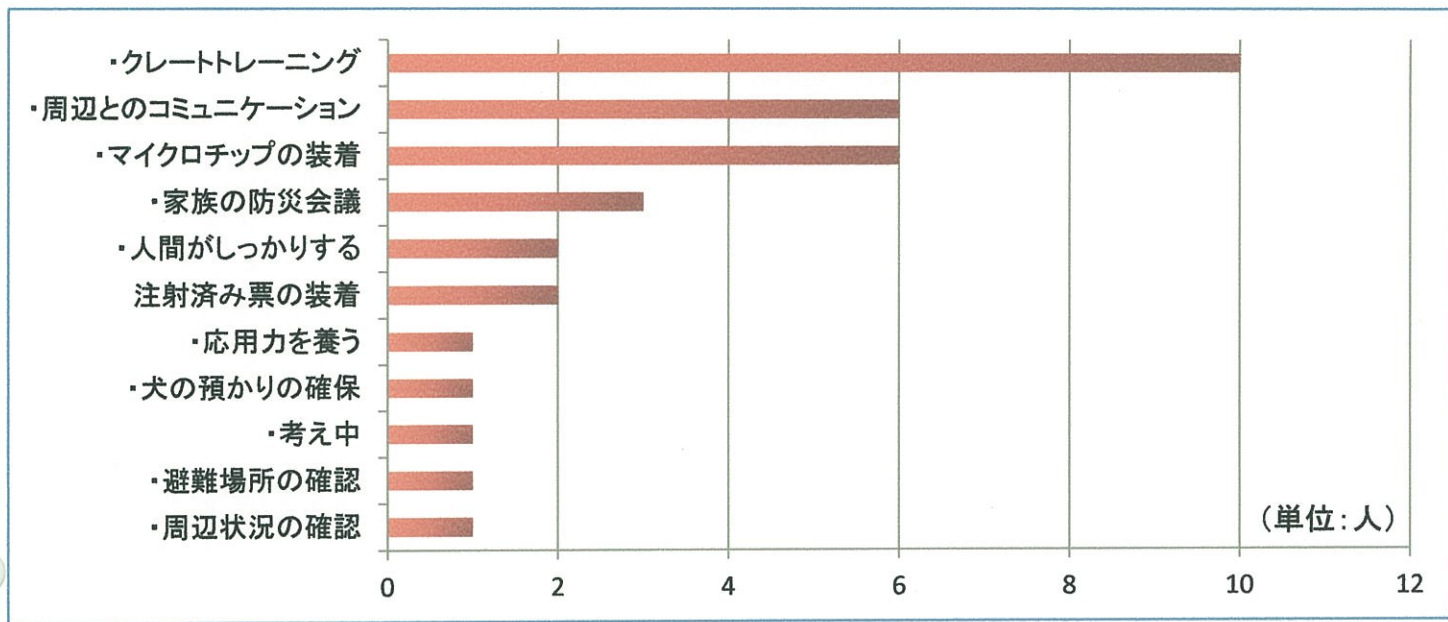


### ◆結果

- ①準備しているかどうかについての答えは、「ハイ」と「イエエ」がちょうど半々だった。
- ②「準備をしている」と答えた人の準備の内容は、「フード」と「水」がほとんどだということが分かった。

- \* ケージとは、動物用輸送かご
- \* クレートトレーニングとはケージに入る練習
- \* ハウスとは、ケージに入ることを意味する命令用語

## 7) 受講してみて、実際に取り入れてみたい準備はありましたか？ (意見要約)



もの	準備内容	人数
	・防災グッズの準備	18
こと	・クレートトレーニング	10
	・周辺とのコミュニケーション	6
	・マイクロチップの装着	6
	・家族の防災会議	3
	・人間がしっかりする	2
	・注射済み票の装着	2
	・周辺状況の確認	1
	・避難場所の確認	1
	・考え中	1
	・犬の預かりの確保	1
	・応用力を養う	1
	・犬の「こと」の準備	1

(単位:人)  
無回答11人

### ◆結果

- ①「もの」の準備が18人なのに対し、「こと」の準備が34人と、前問6)の現在している準備とは逆転した結果となった。
- ②「こと」の準備のうち「クレートトレーニング」「マイクロチップの埋め込み」「周囲とのコミュニケーション」が、取り入れたい準備の主要なものだった。

8) セミナーの感想、ご意見、先生へのメッセージなど何でもお書き下さい。

### (意見要約)

- ・たいへん勉強になった、参考になった、知らないことがたくさんあった 21人
- ・講師へのお礼 13人
- ・このような質のよい講習は繰り返し、いろいろな機会にやった方がいいと思います。動物の関わる全ての人に必要な講習だと思いました。 3人
- ・ただかわいそうだけでは解決できないことが分かった。 3人
- ・「住み分け」の重要性 2人

- ・準備しておく「こと」と「もの」がある
- ・支援の仕方の参考になった
- ・静岡市の避難場所等についてもっと知りたかった。
- ・マイクロチップの必要性
- ・東日本大震災の実状を知ることができた
- ・今後も犬(ペット全般)について教えてほしい。
- ・今日の講習を今後の準備にいかしたい。
- ・きょうは清水区ボランティアセンターの立ち上げ訓練がありました。日程の調整に考慮いただくとありがたいです。関連する内容と思いますので。

各1人

(無回答11人)

## 質疑応答(講師平井潤子先生からの回答)

Q1 )避難所について、事前にペット可かどうかわかりますか？

A1 地域防災計画などで同行避難を謳っているかどうかは、直接自治体に問い合わせ確認できますが、仮に同行避難が認められている避難所でも、被害の規模や避難所の状況によってはペット同行ができない場合もあります。  
また、町単位の避難所では、地元自治会などで判断が異なりますので、万が一、避難所にペットが受け入れられなかった場合の対策を考えておくことも必要です。

Q2 )小型犬を4匹飼っています。万が一ひとりの時に地震が起きた場合、どうい方法で避難したらいいのでしょうか。最良の方法を知りたいです。

A2 避難時には、非常持ち出し品(貴重品など)を運ぶ上に、更にペットも移動させることになり  
ますから、両手が見えるように、リュックタイプのキャリーバッグと、ショルダータイプのキャリー  
バッグなどを組み合わせてはいかがでしょうか。ただし、4匹もの犬を、長距離、長時間、  
お一人で運ぶのは困難です。とりあえずの措置としてお考えください。そのような場合、階段を  
使用せず避難できる立地条件では、荷物と複数頭のペットを乗せて運べる大型のバギー  
カートタイプのキャリーも便利です。

Q3 )マイクロチップはやはり役に立ちますか？迷子札に何を記入すると役立ちますか？

A3 マイクロチップの利点は、ペットの身体から抜け落ちてしまわないこと。東日本大震災の警  
戒区域内から保護された犬や猫は、痩せて首輪が抜け落ちていたケースが報告されてい  
ました。二重三重の予防策として、鑑札などと併用することをお勧めします。迷子札には、あ  
まり多くの情報を書き込むことはできないため、最低限の情報として、①飼い主の名前と緊  
急連絡先、②犬の名前などの記入が必要でしょう。

Q4 )災害時のドッグフードや寄付金は、どこに送ったらいいのでしょうか？

A4 :災害時には、自治体や獣医師会だけでなく、様々な組織やボランティアグループが救援活動  
を行い、みなさまからのご支援を必要としています。  
義援金に関しては、各団体のHPなどの活動報告を参考にし、寄付先を判断いただければいいの  
ですが、使用目的や経過報告などが、明確に公表されているところが安心だと思います。  
ドッグフードや飼育用品については、災害発生直後は銘柄や種類など問わず必要とされて  
いますが、時間が経過するとともに、動物に合ったものが希望されます。まずは、寄付先に  
「現時点で何が必要か」をお問い合わせください。また、用品であれば洗濯や手入れ後の清潔な物。  
壊れていないか、使用可能か、も確認ください。フード類は、開封されていないもの。更に賞味期限  
にもご注意ください。賞味期限が何年も過ぎている物や、破損していたり、汚れがひどいものなどは  
送らないでください。  
仕分けや清掃、消毒、廃棄処分など、被災地の負担をかえって増やすことになりすし、それを  
受け取られた被災飼い主様のお気持ちを傷つけることにもなりますので、ご理解とご協力をお願い  
します。

Q5 )被災地での獣医療(薬や手術用品など)は足りていたのでしょうか？

A5 被災地では、当然獣医師(動物病院)も被災されています。病院の損壊で治療ができなくなる場合がありますし、東日本大震災では福島県の原子力発電所事故による放射性物質の拡散により、警戒区域付近の獣医師も避難せざるをえなくなりました。そのため、入院中の動物も退院し、飼い主に引き取られて避難生活に入ったため、治療が中断し、状態が悪化したケースもあります。こういった状況に対応するため、獣医師会が組織的にサポートを行い、医薬品メーカーの協力を得て、無料の巡回診療や、ワクチン接種などを行ったケースもあります。また、ボランティア獣医師による、治療などの活動も行われました。いざというときに備え、近隣の獣医師会同士の協力体制などを、平常時に検討しておくことは重要です。

また、病気治療中の動物を飼育されている飼い主様は、病名、診断所見検査結果、服用中の薬の名前や量などの情報をまとめておき、避難先でもすぐに提示できるように備えておくことが必要です。また、服用中の薬や療法食は、ゆとりをもって備えておくようにしましょう。

Q6 )被災地における水の調達は、どのようにされましたか？

A6 断水により水の確保は困難でした。しかし、ペットボトルの水、井戸水、温泉水などを利用し、しのいでいたようです。大規模災害時には、配給の水も不足しますので、飼い主責任において、ペット用の水やフード類の備蓄しておくことが必要です。またそれらは、いったん避難した後で、安全を確認し、取り戻れるような場所に保管しておかれると良いと思います。

Q7 )どうやったら関心の低い人に関心を持ってもらえますか？ そのツール、コミュニケーション(行政も含めて)

A7 飼い主さんに意識をもっていただくには、かわいいペットを守るには、飼い主の備えが一番重要であることをお伝えいただくことだと思います。大規模災害時の避難所は大混乱の状況で、人のための水や食料、居場所ですら不足している状況であること。

避難所には、動物が苦手な人、アレルギーなどで一緒に居られない人などがいらっしゃるため、必ず避難所にペットを入れるわけではないこと。災害時に備えたしつけ(ハウストレーニングや犬の社会化)などは、平常時にも役立つことなどを、本日の講義でお聞きになった被災地の現状とともにお伝えいただくと良いかと思います。

また、自治体に対しては、どのような対応が準備されているのかをお問い合わせになるなどして、自治体のサポートを必要としている飼い主(ペット)がいることを、強くアピールしていかれると良いのではないのでしょうか。

動物を同行した避難訓練を提案するのも良いでしょう。

大規模災害時の動物救援活動は、動物だけでなく、動物を同行している飼い主(人)への支援でもあります。

人が安全に避難できなかつたり、避難生活が送れない、ということの無いように、まずは、飼い主の備え、次に近隣の理解と協力、そして自治体や獣医師会の支援、「自助・共助・公助」が必要であることを、ぜひ周りにもお伝えいただければと思います。

# 考察

## 1) あなたの性別、年齢を教えてください

- ・20代、30代の子育て世代よりも40代、50代、60代の中高年の受講者が多かったが、実際の飼育者年齢層と一致しているのかどうかまでは不明である。
- ・静岡市は飼い主年齢を(今回のアンケートのように、年代だけでも)把握しておけば、周知活動の対象絞りこみなど、今後の取り組みに様々な形で役立つと考える。

## 2) ペットを飼っている方にお尋ねします。何を(種類も)何頭飼っていますか?

- ・講習会タイトルが犬に限定されているにもかかわらず、犬を飼っていない人の受講が14、3%もあった。これは犬以外のペットを飼っている人や、何も飼ってなくても災害時のペットについて心配している人達がいることを示している。この人たちの理解と合意こそが、同行避難の有力なサポートになるのではないだろうか。
- ・静岡市は犬以外のペットの飼い主に対する対策も必要と考える。
- ・ペットをなにも飼っていない人の参加は、ペットを同行避難してくる事への心の準備をしていると考えられる。人間の防災訓練のなかでも飼っている人、いない人双方のために、ペット同行避難訓練を進めたほうがよいだろう。

## 3) このセミナーをどこで知りましたか? (複数回答可)

- ・「友人・知人」などの口コミ効果が22、3%と予想外に大きかったのは、「イヌ友」「イヌ仲間」のネットワークがかなりできあがっていると考えられる。今後の周知活動等に生かせるのではないか?
- ・パイロット事業審査結果講評の中で「配付方法や配布先の工夫をし、広く広報することが大切」との指摘を受けていたので、チラシのデザインはもとより、配布先、チラシとあわせてポスターを製作するなど知恵をしばった結果、受講者の約3割がチラシによる参加者だった。

## 4) 受講の理由を教えてください。(意見要約)

- ・東日本大震災の影響で災害時に対する関心が非常に高く、タイムリーな企画だった。
- ・同行避難はできるのか、被災動物について誰にも教えてもらえない、問い合わせ先がわからない、区に問い合わせても答えてもらえないなど、災害時のペットに対する市の取り組みが不明瞭なことに飼い主は不安を感じていることがわかった。
- ・市はまずは飼い主にしかできない具体的な準備や対策を提案し、広く繰り返し周知していく活動が必要と考える。
- ・併行して「静岡市被災ペット動物緊急救護計画」の進捗状況を、おりおり公開する事が必要と考える。まだ改訂中なら改訂中と伝えれば、飼い主は安心し誠意ある回答だと感じるだろう。飼い主は市の情報を求めている。
- ・飼い主の最大関心事は「同行避難」である。
- ・「避難所には入れてもらえないだろうから、自宅で過ごすことになるでしょう」という回答もあるように、ペットを救済することは人を救済することだといえる。

## 5) きょうのセミナーはいかがでしたか?

- ・「講義」への評価が高かったのは、災害時の動物救援の現場経験が豊かで、知識の深い講師を迎えることができたのが最大の理由だろう。
- ・「モデル犬」への高い評価は知らない場所でケージに入って、飼い主と離れても長時間静かにしていることのできる犬が少ない事の裏返しと思われる。アンケート問7)で、これからとりいれたい準備のトップに「クレートトレーニング」があがっていることから、講義室内にモデル犬を入れたことは非常に大きな意味があった。
- ・会場内に「モデル犬」を設置することにより、災害時を想定したしつけの必要性を肌で実感してもらうことができた。



## 6) 現在、ペットのための災害準備をしていますか？

- ・ハイとイイエがちょうど半々であったことは、飼い主さんの受講理由にもつながる。準備はしているけれどこれでよいのかどうか分からない。準備していないので、何を準備すればいいのかわかりたい。その両方の人たちが受講したと考えられる。つまり、「**飼い主にしかできない準備**」が、**何がわかっていないのが現状だろう**。
- ・準備していると回答した人も水と食料が主体で、十分な準備からはほど遠い現実がみえた。市は、**飼い主にしかできない具体的な準備内容を早急に広く公平に周知する必要がある**と考える。

## 7) 受講してみて、実際に取り入れてみたい準備はありましたか？(意見要約)

- ・講師の伝えなかったことが、きちんと受講者につたわったと感じるアンケート結果となった。
- ・現在している準備が「もの」中心のハード面だったのに対し、今後とり入れたい準備は「こと」中心のソフト面という結果になった。しつけの重要性への大きな気づきとなったといえる。
- ・家族をはじめ犬の仲間、ご近所の人たちなどとの人間関係を見直す回答も大きな特徴だった。犬を助けるためには、日頃の自分の人間関係が基盤になることを新たに理解したためと思われる。
- ・誤解から、**マイクロチップやクレート・トレーニングを敬遠していた方々の誤解を解くこともできた結果**となった。

## 8) セミナーの感想、ご意見、先生へのメッセージなど何でもお書き下さい。(意見要約)

- ・災害が発生した時に(ケースバイケースではあるが)、現場では何が起こり、その後どのようになるのかが具体的に提示されたことにより、ただやみくもに不安だったりあきらめたりして困っていた飼い主さんに、**行政に頼るだけでなく飼い主にできる準備の実際を提示できた**。
- ・このような質の良い講習会を今後も繰り返し開催してほしいという要望が複数あった。
- ・講師への信頼と感謝の言葉が多くみられた。
- ・被災地へのペット救援のしかたを知りたくて受講された方もいた。

### <アンケートから見えてくる課題>

- ① 飼い主の実態把握の必要性
  - ・市内の犬の飼育者年齢層の把握
- ② 飼い主の災害準備のあり方について
  - ・飼い主にしかできない「もの」と「こと」の準備の具体的提示と周知
  - ・狂犬病予防注射の徹底
- ③ 「静岡市被災ペット動物緊急救護計画」のさらなる見直しと充実および周知

無料講座 先着100名

ワンコ  
を守る

# 災害時 犬はどうなる?!

当日 直接  
会場へ



豊富な  
資料

モデル犬も  
来るヨ!

福島で救援活動  
をしている方が講師

いつ起きてもおかしくない、地震やゲリラ豪雨。その時あなたは大切な愛犬の命を守ることができますか？

3・11の震災、三宅島の噴火、中越地震、すべて現地で活動をしながらペットたちの実情をつぶさに見てきた講師が、豊富な画像を駆使し、どんなものを準備し、どんなしつけが必要か、分かりやすく教えてくださいます。

**日時** 11月23日(祝) 13:30~15:30

**場所** 静岡市清水文化センター  
静岡鉄「桜橋」徒歩3分

**講師** (公社)日本愛玩動物協会災害担当理事  
平井潤子氏

**主催** 静岡市 (協働パイロット事業)

**問合せ** 080-3670-2284 犬の会  
inunokai\_1992@yahoo.co.jp  
[http://blogs.yahoo.co.jp/wanwan\\_inunokai](http://blogs.yahoo.co.jp/wanwan_inunokai)

【企画・運営】 犬の会



犬同伴不可

# 静岡気分

広報しずおか

No.0207

SHIZUOKA KIBUN

<http://www.city.shizuoka.jp/>

## わっとする HOTなまち 静岡市

2011.11.01 | 9

申込時の必要事項…催事名、住所、全員の氏名(ふりがな)、電話番号は必ず記載してください



### 災害時、 犬はどうなる?!

とき: 11月23日(祝)、午後1時30分~3時30分

ところ: 清水文化センター(清水区桜が丘町)

内容: 災害時の飼い犬の実情と対策

対象: どなたでも(無料)

※当日、直接会場へどうぞ

問合せ: 犬の会 ☎080-3670-2284

担当: 市民生活課 ☎221-1265

責争

居五

業斤

居月

平成23年(2011年)11月17日(木曜日)

### 災害に備えて 犬のしつけ紹介

23日、清水区

静岡市は23日午後1時半から、清水区の清水文化センターで講座「警察犬と考えるよう・犬のトラブル解決法」を開く。参加無料。

「静岡市協働パイロット事業」の一つで、全3回の講座。市内を中心に犬のしつけ指導などを行っている市民団体「犬の会」が企画・運営する。第2回は1月22日、第3回は3月11日に予定している。

初回のテーマは「災害時、犬はどうなる?!」。東日本大震災や中越沖地震などの被災地でペットのケアに当たった日本愛玩動物協会災害担当理事の平井潤子さんが講師を務め、災害に備えて必要なしつけなどを紹介する。

定員100人。希望者は直接会場へ。問い合わせは犬の会へ ☎080-3670-2284

享月

日

業斤

居月

2011年(平成23年)11月17日 木曜日

災害時犬はどうなる?!(静岡市清水区) 23日午後1時半、桜が丘町の清水文化センター。日本愛玩動物協会災害担当理事の平井潤子さんが話す。無料。先着100人。直接会場へ。犬の会 ☎080-3670-2284。

2011年11月21日  
FM清水にて番組に出演し「災害時、犬はどうなる」の講習会内容、申し込み、問い合わせ先などについて話した。

## ”災害時、犬はどうなる？” 役割分担表

2011・11・23

…………☆明るい笑顔で、楽しい講習会にしましょう☆…………

- ◆担当者 2名
- ◆モデル犬 2組
- ①会議室内スタッフ(受け付け) 3名
- ②玄関スタッフ(会場案内) 1名
- ③屋外スタッフ(会場案内) 3名
- ◆会計 1名
- ◆記録 1名

- ・駐車場は文化センター向かい側  
(後日領収書を会計へ提出)
- ・会議室協駐車場(無料)は1名
- ・全員黄色ベスト着用

\*手のあいた方は、全て受付手伝いへ\*

時間	担当者	場 所	作 業 内 容	用 意 す る 物	
12:00	担当者集合	2名	会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室解錠</li> <li>・荷物搬入・機材確認</li> <li>・モデル犬搬入</li> <li>・防災グッズ展示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示物、受付用品</li> <li>・配付資料6種、予備PC</li> </ul>
	講師出迎え スタッフ集合	1名 ①スタッフ	会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR静岡駅新幹線改札口</li> <li>・機材設置</li> <li>・モデル犬配置</li> <li>・正面タイトル掲示</li> <li>・受付設置(配布資料6種設置)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災グッズ</li> <li>・スクリーン、予備PC プロジェクター、マイク</li> <li>・ケージ、シート</li> <li>・タイトル紙</li> <li>・レジメ、質問用紙 環境省パンフ、協会パンフ 第2回チラシ、アンケート</li> </ul>
		②スタッフ	玄関つき当り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立て看設置</li> <li>・長机にポスター掲示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・照明、空調調節方法確認</li> <li>・長机1台、タイトル紙</li> <li>・グリーンポスター</li> </ul>
		③スタッフ	玄関外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイトル紙を案内板に掲示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦長タイトル紙</li> </ul>
13:00~	受付開始	①スタッフ	会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料配布6種</li> <li>・受講者数カウント</li> <li>・住所地区名の記入カウント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジメ、質問用紙 環境省パンフ、協会パンフ 第2回チラシ、アンケート</li> </ul>
		②スタッフ	玄関つき当り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者への声かけ</li> <li>・会議室の場所を案内</li> </ul>	
		③スタッフ	玄関外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者への声かけ・入口案内</li> <li>・講師を会議室へ誘導</li> </ul>	
13:30~	セミナー開始 ①スタッフ 会議室	①スタッフ	会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・照明、空調の管理</li> <li>・休憩時間に質問用紙回収</li> <li>・体調の悪くなった人の案内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレ、自販機の案内</li> </ul>
	13:45まで 13:45まで	②スタッフ ③スタッフ	玄関つき当り 玄関外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内所撤収(立て看残す)</li> <li>・用具撤収(立て看残す)</li> </ul>	
15:30	セミナー終了	スタッフ全員		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート用紙の回収</li> <li>・受講者への声かけ</li> </ul>	
		会 計 担当者1名		<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師への支払い</li> <li>・講師を静岡駅まで送る</li> </ul>	
		全 員	会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・撤収 <u>会議室内現状復帰</u></li> <li>・防災グッズ、ゴミは沖持ち帰り</li> <li>・文房具類は次回担当者へ</li> <li>・モデル犬の撤収</li> </ul>	
16:00	解 散	担当者	会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施 錠</li> <li>・事務室へ鍵返却</li> </ul>	

◆取材対応 ⇒第1回担当者

◆困ったことがあれば、なんでも第1回担当者におたずね下さい。

# 第1回 講習会 ①



会場の清水文化センター入口で参加者の誘導  
今にも雨の降りそうな曇り空です。



会場外の案内板



建物内でも迷わないように会場案内



会場案内板



13:00 笑顔で受付開始



男性受講者も

## 第1回 講習会 ②

犬用災害グッズの展示コーナー  
非常用持ち出し袋の中身を説明書付き  
で並べました。



一つ一つ丁寧に確認する受講者の皆さん



大勢の受講者がつめかけました。



13:30 講習会開始の挨拶



災害時、犬はどうなる?!

講師 平井潤子氏

講師の平井潤子 氏



受講者の期待の高まりと共に講義が  
始まりました。



# 第1回 講習会 ③



通路にモデル犬① 設置  
(ラブラドル・レトリーパー)



通路にモデル犬② 設置  
(トイプードル)

## <モデル犬2頭>

受講者が来場する前から、2本の通路に1ヶ所ずつ、ケージに入れたモデル犬を設置しました。飼い主と離れて受講者に囲まれた状況で、休憩時間もそのまま、講習会終了まで静かにして、クレートトレーニングの効果と必要性を実感していただきました。

- \* ケージとは、動物用輸送かごを意味する
- \* クレートトレーニングとはケージに入る練習
- \* ハウスとは、ケージに入ることを意味する命令用語



熱気あふれる会場



パワーポイントを使って分かりやすく説明  
平井講師の提供して下さった画像は大変貴重なものばかりでした。



メモをとりながら熱心に受講

# 第1回 講習会 ④

